

医系専門予備校メディカルラボのカリスマ講師が教えます!

医学部受験の福急

医学部入試の出題傾向は大学により千差万別。また、受験生にもそれぞれ学力特性があり、一人ひとり異なります。そこで、自分の学力特性に合った合格の可能性が高い志望校を選定し、合格を勝ち取るためには、どう取り組めばいいのでしょうか。医学部に数多くの受験生を合格させてきたカリスマ講師の可児良友先生が、「医学部受験の極意」を伝授します。

受験生



1 「相性のいい大学」を選ぶ!

受験は戦略だ。君は戦略を持っているか?

受験校を偏差値だけで選んでいませんか。同じ医学部でも大学により出題傾向はそれぞれ大きく異なります。たとえば、A大学の英語は長文読解の語数が多く、B大学では語彙・文法、英文和訳が出題されるなど、傾向はさまざまです。さらに、①問題量②難易度③頻出分野④出題形式——などが科目ごとに違ってくる。合格を勝ち取るためには、偏差値だけではなく、大学の出題傾向を分析し、どの大学が自分の「学力特性」に合っているのかを見極めることが大切です。「相性のいい大学」を選定するには、まず、いくつかの志望大学の過去問を解いてみましょう。書店で販売されている大学別の過去問題集を解いて、配点はもちろん、スピード、記述力、読解力など、何を重視しているのか出題傾向を知り、「相性のいい大学」を選定しましょう。メディカルラボでは個別指導を通じて生徒一人ひとりの得意・不得意、といった学力特性を分析し、「より合格の可能性が高い大学」を探り、偏差値だけで選ばず、出題傾向から「相性のいい大学」を選定します。

2 どう得点するかを戦略的に考える!

医学部に合格するためには満点を取る必要はありません。6〜7割得点できれば合格点に達します。大切なのは、制限時間内でいかに得点するかです。そのためには普段から過去問を解く際に、本番を想定して試験問題全体に目を通し、どの問題から解き、どの問題を後に回すかを見定め、効率よく解答する演習を積んでおくといでしょう。また、実際の入試では、問題が難しくて行き詰まったときに、まだ粘って考えるか、あきらめて次の問題に進むか、切り替えのタイミングも重要です。本番までに問題ごとの制限時間を決めておくといでしょう。こういったことは、急に本番でやろうと思ってもできないものです。入試当日に実力を発揮するには、どれだけ準備をしてきたかが物を言います。医学部に合格するためには、「絶対に医師になる」という強い意志も大切です。自分を信じ、絶対に合格する気持ちで臨んでください。

高1・2年生



1 キミは計画を立てた?

万全な準備でライバルに差をつけろ!

医学部入試は難関です。やみくもに学習しているのは、時間がどれだけあっても足りません。ライバルに負けないよう効率よく学習するためには、まずは学校行事などの年間予定をプランに入れて学習計画を立てることが大切です。高校生は学校行事だけでも忙しく、学校の学習進度が遅い場合もあるため、それも考慮し学習計画を立ててください。メディカルラボではまず、現時点での学力を診断・分析したうえで、1年間を前期(4〜6月)、夏期(7〜8月)、後期(9〜11月)、冬期(12〜1月)の4期に分け、基本レベルのテキストから医学部入試レベルのテキストへと内容を変え、目標に向けて学習を進めます。学習計画を立てる際には、最初から1年分の詳細な計画ではなく、3カ月単位、月単位、週単位の計画を立てます。1週間の学習を終えたら、週末の予備日に翌週の計画を立て、自分の進度に応じた学習時間を設定すると計画実行力が上がります。

2

キミの勉強法は合っている?

初めから難しい応用問題に取り組もうとしていませんか。応用問題とは基本の組み合わせですから、基本をしっかりと理解していないと解けません。そのためにも「理解・定着・応用力」の3段階で、しっかりと基礎固めをしていきましょう。第1段階では公式の成り立ちや使い方、基本的な問題の解き方を「理解」します。なぜそのように解くのかを自分の言葉で説明できて初めて理解したと言えます。ほかの人に説明するという意識で問題を解くと理解が深まります。第2段階では問題を見た瞬間に解き方が思い浮かぶ

3

受験を乗り切るモチベーションづくり

「医師になる覚悟」はできていますか。医学部卒業後に待っているのは、医師か研究者の道です。つまり、将来の職業を志望校を選ぶ時点で決めて受験することになります。医師としての将来像を具体的に描く必要があるのです。受験生の多くが「信頼される医師になりたい」と考えますが、信頼されることは容易ではありません。医師には病気を治すだけでなく、患者さんの気持ちに寄り添い、わかりやすく説明する力も求められます。だからこそ、医学部受験では小論文や面接試験で医師としての資質や適性を問うのです。「医学部合格を目指す皆さんには、「なぜ医師になりたいのか」「どのような医師になりたいのか」を考え、「将来どのように社会に貢献できるのか」を深く掘り下げてほしいものです。メディカルラボでは小論文や面接対策の授業を通じて、講師と生徒が1対1で話し合いながら、医師としての将来像を具体的に描き、物事を幅広く考える力を養っています。「目指す医師像を明確にすること」が医学部合格と、引いては医師への第一歩になります。



メディカルラボ 本部 教務統括 可児 良友先生

医系専門予備校メディカルラボ本部教務統括。1991年より大手予備校で受験生の指導に携わり、数多くの医学部・歯学部志望者を合格に導く。その豊富な経験をもとに、マンツーマン授業で合格を確実にする医学部受験の指導メソッドを構築。2006年に医系専門予備校メディカルラボの開校責任者となる。カリキュラムの監修や講師・スタッフを統括する本部教務統括として、また生物の講師として、医学部受験の最前線で活躍中。各地で医学部受験をテーマに講演を行い、テレビ等のメディア出演も多数。

医系専門予備校 **メディカルラボ** 平成30年度 合格実績

903名 (国公立大学113名)

医系専門予備校合格者数 **No.1**

※医学部予備校ナビ調べ

全国25校のネットワーク



全国最多の実施校を誇る **医学部入試合格ガイド** 一入試直前対策編 受験生・高校生必読

参加者 募集中

医学部受験生のバイブル『2019年度用全国医学部最新受験情報』刊行に伴い、最新医学部情報を解説する講演会を**全国36都市、53会場**で開催。



申込方法はこちら▶